

# 岡山ESDプロジェクト 2015-2019 基本構想 (案)

<20150225ver. 18>

## まえがき

### 1. 持続可能な社会づくりと ESD の必要性

大量生産、大量消費、大量廃棄型の急速な経済成長や人口増加に伴い、地球上では、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等が進み、将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保するための基盤となる環境が、年々損なわれつつあります。また、東日本大震災をはじめ世界各地で頻発する災害や各地で続く紛争は、社会の持続不可能性をあらわにしています。

このような現代社会において、1987年に「環境と開発に関する世界委員会」が、「我ら共通の未来 (Our Common Future)」において提唱した「持続可能な開発 (Sustainable Development) = 将来の世代のニーズを満たしつつ、現在の世代のニーズも満足させるような開発」は世界中から広く支持され、現在では人類社会全体で取り組むべき共通のテーマとなっています。そして、1992年の「国連環境開発会議 (リオサミット)」では、「持続可能な開発」を推進していくためには、教育が重要な役割を果たすことが合意されました。

グローバル化が進む中、現代社会が抱える様々な課題を解決し、現在および将来の世代のために持続可能な社会を築いていくには、地球に住む我々一人ひとりが、環境や開発、貧困・公正等の問題に対する理解を深め、価値観や思考、行動を変革する必要がある、そのための取組が「持続可能な開発のための教育(ESD=Education for Sustainable Development)」です。ESDは、グローバル、国、地域などあらゆるレベルで推進する必要があります。

岡山地域においても、地球規模の課題はもとより、人口減少・少子高齢化や周辺地域の過疎化、コミュニティの希薄化、激甚化・多様化する自然災害等、環境・経済・社会の側面が複雑に絡む様々な課題への対応を迫られています。そこで、安心・安全で魅力や活力のある持続可能な社会づくりに向けて、地域の特性を活かした革新的な解決策を見出し、実践する担い手を育てるためには、様々な人や団体・組織が参画・協働し、広域的な連携を図りながら、ESDを推進していくことが重要です。

### 2. 新基本構想策定に当たって

2002年に開催された「持続可能な開発に関する世界首脳会議 (ヨハネスブルグサミット)」において、日本政府はNGOの協力のもとにESD推進を提案し、国連総会での決議を経て、2005年から「国連ESDの10年」が始まりました。提唱国である日本では、2006年に「国連ESDの10年」に関する実施計画が策定され、学校教育現場や社会教育現場などにおいてトップダウンとボトムアップ双方からESDが推進されてきました。

一方、岡山地域では、国連大学が提唱した「ESDに関する地域の拠点 (RCE)」構想に賛同し、2005年4月に岡山ESD推進協議会を設立するとともに、「岡山ESDプロジェクト基本構想」を策定しました。同年6月には、国連大学から世界で初めて「ESDに関する地域の拠点 (RCE)」7カ所の一つに認定され、それ以来、公民館を拠点とした地域コミュニティにおけるESD活動の推進、中学校区単位で小学校や中学校が連携したユネスコスクールによるESD推進をはじめ、大学、市民団体、企業、行政などの多様な

1 主体が連携し、地域全体で ESD を推進する体制が整えられてきました。

2 特に、「ESD に関するユネスコ世界会議」の岡山開催に向けた誘致活動、その後の開催決定を契機に、  
3 岡山市役所を中心に、全市域における ESD 普及啓発活動や、活動助成の充実、ESD コーディネーター  
4 研修の実施などを行ってきました。そして、2014 年 9 月には、世界会議開催に合わせて、岡山市議会議  
5 員の提案による岡山市 ESD 推進条例（えーものを子孫の代まで条例）が制定されました。

6 「国連 ESD の 10 年」の最終年である 2014 年 10 月、11 月には、愛知県名古屋市と岡山市において「ESD  
7 に関するユネスコ世界会議」及び関連会議が開催され、10 年間の成果と課題、2015 年以降の ESD 推進  
8 の方針や枠組、具体的な推進方法などが議論されました。各会議における議論の結果は、様々な宣言と  
9 してまとめられました。また、岡山地域で行われてきた、多様な主体の参画による地域コミュニティに  
10 根差した ESD 実践は、「ESD 岡山モデル」として世界会議において発信され、関係機関や参加者から高  
11 く評価されました。

12 世界会議では、持続可能な社会の構築を加速させ、ESD 実践を強化するために「国連 ESD の 10 年」  
13 以降の枠組として、「ESD に関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）」が公表されました。  
14 さらに、2015 年に最終年を迎える国連「ミレニアム開発目標（MDGs）」に続く枠組として提案されて  
15 いる「持続可能な開発目標（SDGs）」の中でも ESD が言及されており、ESD の重要性は益々高まっ  
16 ています。

17 以上、岡山 ESD プロジェクトが開始されてから 10 年間を経て明らかになった成果や課題および、ESD  
18 に関するグローバル・アクション・プログラムの開始等の国際的な動向、さらには岡山市の新総合計画  
19 策定の動きも視野に入れ、2015 年以降も ESD を継続して推進するため、従来の岡山 ESD プロジェクト  
20 基本構想（2007 年改訂版）を全面的に見直し、「岡山 ESD プロジェクト 2015-2019 基本構想」を策定し  
21 ます。

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

1 **本文**

2

3 **1. 岡山ESDプロジェクトの目ざすもの(目的)**

4 本プロジェクトは、岡山地域と地球の未来について、共に学び、考え、行動する人が集う岡山地域を  
5 実現すること、及び岡山地域での取組を通して、世界中で、環境・経済・社会各分野において調和のと  
6 れた持続可能な社会の実現に貢献することを目指します。

7

8 **2. めざすべき地域の姿(実現したい未来像・ビジョン)**

- 9 (1) ESD や持続可能な社会づくり (SD) について、多くの市民が理解し、行動しています。
- 10 (2) 岡山地域内で自主的・積極的に活動する組織・団体の輪が広がり、持続可能な社会・地域づくり  
11 が進められています。
- 12 (3) 世界・国内・岡山県内のさまざまな組織・団体間のネットワークを活用し、ステークホルダーと  
13 継続的な学び合いが行われています。

14

15 **3. 基本的な事項**

16 **(1) プロジェクトを実施する主体**

17 本プロジェクトは、趣旨に賛同する各組織・機関・団体に構成する岡山 ESD 推進協議会を中心に、  
18 各組織・機関・団体が主体的に実施するとともに、それぞれの立場に応じた役割を担い、協働で実施  
19 します。

20

21 **(2) プロジェクトの対象地域**

22 本プロジェクトの実施地域は、岡山市を中心にした地域を対象としますが、行政区域に拘らず、岡  
23 山県内の河川流域、都市圏などの広域における関連組織と連携を図り、ESD の推進を図ります。

24

25 **(3) プロジェクトの対象分野**

26 本プロジェクトは、環境保全と国際理解をはじめ、持続可能な社会づくりに関係する環境・経済・  
27 社会すべての分野の活動を対象とします。

28

29 **(4) プロジェクトの対象期間**

30 本プロジェクトの対象期間は、概ね 10 年を展望しつつ、グローバル・アクション・プログラム(GAP)  
31 の検証期間と合わせて 2015 年～2019 年の 5 年とします。ただし、さまざまな情勢の変化に柔軟に対  
32 応していくため、期間内であっても適宜見直しを行います。

33

34

35

36

37

38

1 **4. 10年間の成果と課題**

2 本プロジェクトは、前述の通り、2005年から行われてきたものです。2005年から2014年に行った  
3 プロジェクトの成果と課題は以下の通りです。

4 **(1) 成果**

5 **①地域コミュニティ（中学校区）を拠点とした市域全体でのESD推進**

6 公民館やユネスコスクールなどの地域コミュニティの拠点を核として、学校・地域住民が連携した  
7 ESD活動が全市域で推進されています。

- 8 ・公民館が地域住民の「ESDを学ぶ場」となり、公民館職員がコーディネーターの役割を担っています。
- 9 ・小中高等学校におけるユネスコスクールの取組と連携が進みました。
- 10 ・中学校区単位でのユネスコスクール推進を中心に、学校教育に多様な人々が参加しています。
- 11 ・地域コミュニティのコーディネーターのスキルアップのための研修を進めています。
- 12 ・教育委員会、岡山大学等で、学校教員に向けたESD研修が行われています。

13 **②あらゆる世代、多様な団体の参加**

14 あらゆる社会活動の中にESDがかかわることを普及啓発した結果、ESDの認知度が向上し、参加す  
15 る人が増えました。

- 16 ・対話とつながる場（連携する基盤）ができています。
- 17 ・ESDに取り組む団体・市民が増加しました。
- 18 ・岡山ESDプロジェクトへの参加により各団体の活動に広がりが出ました。

19 **③専従コーディネーター（行政）や大学による継続的支援**

- 20 ・高等教育機関（大学）による岡山地域内のESD活動の支援が行われています。
- 21 ・専従コーディネーターが行政によって配置され、市民のESD活動を支援しています。
- 22 ・高等教育機関、NPO等により、学校や地域コミュニティの活動に対する支援が専門的見地から行われ  
23 ています。

24 **(2) 課題**

25 岡山地域で、ESD活動数、参加団体数が増加し、活動分野の広がりが出てきました。しかしながら、  
26 持続可能な社会の実現に向けた岡山地域全体の意識改革や、具体的な活動の促進に向けては、これま  
27 での活動の継続とともに、新たな取組も求められています。また、プロジェクトを推進するにあたり、  
28 現状に即して活動しやすい運営体制へと変更が求められています。そのため、2015年以降、以下のよ  
29 うな観点から、活動を見直していく必要があります。

- 31 ① ESD活動が各地域コミュニティレベル、特定の社会課題にとどまっており、岡山地域全体の包  
32 括的な活動になっていません。従って、ローカルな視点とグローバルな視点を盛り込んだ岡山  
33 地域の未来の姿を共有し、連携・協働して取り組むことが求められています。
- 34 ② ESDを推進する人材の数は増加してきたものの、特定の地域や分野に限られています。岡山  
35 地域全体に広げるためには、ESDを推進する人材をさらに育成していくことが必要です。
- 36 ③ 学校や公民館などが協働したESD活動が推進されている地域コミュニティがあるが、一部に限  
37 られています。岡山地域全体に広げていく必要があります。
- 38 ④ 学校においても様々なESDの取組が行われていますが、今後は、質の向上をはかる取組も必要

1 　　です。

2 ⑤ 指標や顕彰の仕組みがなかったため、ESD 活動の質向上へのインセンティブが不十分であり、  
3 　　また、優良事例として紹介できる事例は一部に限られています。従って、モデルとなる優良事  
4 　　例を表彰し、普及することが必要です。

5 ⑥ 図書館の ESD コーナーなど、学校や公民館以外でも ESD の拠点となる取組が始まりましたが  
6 　　現時点では少数となっています。さまざまな施設が ESD の拠点となる可能性があり、広げてい  
7 　　くことが必要です。

8 ⑦ 世界会議開催により、多くの企業や行政機関の ESD への関心は高まりましたが、岡山 ESD 推  
9 　　進協議会への参加は多いとは言えません。より多くの企業等の参画を得る必要があります。

10 ⑧ 岡山での世界会議には96ヶ国及び、国内各地から参加いただき、岡山の取組が注目されました。  
11 　　この成果を活かし、世界の ESD 推進に貢献するために、会議成果の普及やネットワークの活用  
12 　　が求められています。

13 　　これらの取組を推進していくために、岡山地域の各団体・組織・機関の ESD 活動を促進、調整する  
14 　　推進体制を維持、発展させることが必要です。

## 15 16 5. 本プロジェクトの重点取組

### 17 (1) 8つの重点取組

18 　　2014 年までのプロジェクトの成果と課題を踏まえ、今後 5 年間、下記の項目について重点的に取  
19 　　り組めます。

#### 20 ① <持続可能な地域の姿の共有>

21 　　持続可能な社会づくりに向けた市民の理解を進め、持続可能な未来の岡山地域及び、それぞれの  
22 　　地域コミュニティごとの姿を描くとともに、その実現のための連携・協働を推進します。

#### 23 ② <ユース・人材育成>

24 　　地域コミュニティや、社会課題分野ごとに、ESD を中心となって推進する若者をはじめとした  
25 　　人材を育てる取組を推進します。

#### 26 ③ <地域コミュニティ・公民館での ESD 推進>

27 　　各中学校区で学校と公民館等が連携した取組を推進します。

#### 28 ④ <学校の ESD 推進>

29 　　各学校園で ESD 実践を広げるとともに、深めます。

#### 30 ⑤ <優良事例の顕彰>

31 　　モデルとなる ESD の優良事例を顕彰するとともに、多くの市民に発信することにより、その取  
32 　　組を手本とした活動が各地で行われるよう制度を整えます。

#### 33 ⑥ <ESD 活動の拡大>

34 　　ESD 活動を広げ、公民館や学校以外の施設でも、ESD の拠点となる活動の場を増やします。

#### 35 ⑦ <企業・事業者の取組促進>

36 　　企業、行政機関での ESD の取組を推進します。

#### 37 ⑧ <海外や国内との連携>

38 　　海外や国内の組織と一層連携します。

## (2) 具体的な取組

重点プロジェクトを推進するための主な取組としては、以下の取組を行います。

### ① <持続可能な地域の姿の共有>

- ・市民団体、公民館、行政、大学などで、持続可能な社会づくりに関する社会課題の解決や、将来ビジョンを創る参加型の学びの機会を促進します。
- ・岡山での ESD の意識を共有するため、市民参加型イベントを実施します。
- ・各種団体が持続可能な社会づくりの目標をたてて活動し、その目標を公表します。

### ② <ユース・人材育成>

- ・地域コミュニティや社会課題分野ごとに、ESD を中心的に推進する若者をはじめとした人材を育てる取組を推進します。
- ・ESD を推進するための ESD コーディネーターの育成・確保を図るための取組を行います。
- ・大学や NPO と連携して、若い世代の ESD 実践者を増やす取組を進めます。

### ③ <地域コミュニティ・公民館での ESD 推進>

- ・公民館における ESD 活動を一層推進します。
- ・学校と公民館の連携を図ります。
- ・大学、企業等の専門的分野の知識と、地域コミュニティの ESD 活動の実践が結びつく活動を促進します。
- ・公民館や学校で、地域住民や保護者、教職員が接する ESD に関する情報を増やします。

### ④ <学校の ESD 推進>

- ・ユネスコスクールコンソーシアム（連合体）を形成し、構成メンバー間が連携したり、国内外のユネスコスクールとの交流をはかったりすることで ESD 活動の充実を図ります。
- ・県内の学校間のネットワーク組織と連携し、異校種間でもそれぞれの ESD の活動の情報交換や交流ができる場をつくります。
- ・岡山市内の全校で ESD を推進することから、ユネスコスクールに限らず全ての学校の教員を対象にした ESD 研修を行います。
- ・教育課程の中に ESD を位置づけ、ESD の視点で教育課程を見直し、よりよい教育課程を編成します。
- ・大学の教員養成課程での ESD の取組を進めます。

### ⑤ <優良事例の顕彰>

- ・様々な組織と連携し、ESD 活動の評価、顕彰のための仕組みづくりを進めます。
- ・ESD 活動の顕彰のため、「(仮称) 岡山 ESD アワード」を創設します。

1 ⑥ <ESD 活動の拡大>

- 2 ・ ESD を各組織が協働して推進できるよう、助成制度の継続を含め、市民協働の取組を促進して  
3 いきます。  
4 ・ 図書館、博物館、行政以外のコミュニティ拠点、その他広い意味での教育拠点などでも ESD 活  
5 動の取組が広がるような働きかけを行います。

6  
7 ⑦ <企業・事業者の取組促進>

- 8 ・ 事業活動における環境配慮活動や CSR 活動、社会貢献型の調達を促進します。  
9 ・ 各組織における ESD の普及を図り、協議会や地域コミュニティでの ESD 活動への参加を促進  
10 していきます。  
11 ・ 多様な組織が集い、それぞれの組織における社会的責任（SR）活動や社会貢献の取組を進めて  
12 いくための学習機会を提供します。

13  
14 ⑧ <海外国内との連携>

- 15 ・ 河川流域など共通する社会課題解決に向けた広域的な連携を促進します。  
16 ・ 国内外の公民館、CLC との交流を進めます。  
17 ・ ユネスコスクールを中心とした学校間で国内外の交流を進めます。  
18 ・ 国内外の RCE 地域間の人や情報の交流を進めます。

19  
20  
21  
22 **6. 指標及び、5年後の達成目標**

23 それぞれの目標達成へ向けた重点取組分野の指標は以下のとおりとします。

24 ① <持続可能な地域の姿の共有>

指 標	現状(2014)	中間年(2017)	最終年(2019)
岡山 ESD 推進協議会参加団体が、岡山地域全体 や地域コミュニティの将来像や社会課題を話し 合うワークショップ開催件数	3 件	累計 36 件	累計 60 件
岡山 ESD 推進協議会への登録した団体・組織数	226 団体	260 団体	300 団体
岡山市(ESD・市民協働推進センターの取組等)を含む 多様な主体による課題解決のための取組件数	28 件	累計 90 件	累計 150 件

25  
26 ② <ユース・人材育成>

指 標	現状(2014)	中間年(2017)	最終年(2019)
ESD コーディネーターの人数	100 人	160 人	200 人
大学・高校、ユース向け ESD 講座受講者数	年間 200 人	累計 600 人	累計 1,000 人
ESD コーディネーター研修修了者数	年間 20 人	累計 60 人	累計 100 人

1 ③ <地域コミュニティ・公民館での ESD 推進>

指 標	現状(2014)	中間年(2017)	最終年(2019)
ESD に関する公民館講座や行事	毎年、岡山市内全公民館で複数実施し、その内容の充実をはかります。		
学校、公民館が連携した学習や実践活動を岡山市内全中学校区で行うことを目指します。	調査検討中		37 件

2

3 ④ <学校の ESD 推進>

指 標	現状(2014)	中間年(2017)	最終年(2019)
学校教育基本計画に ESD の推進を位置づけている学校	現状数値は調査中		100%
各校から必ず出席しなければならない研修会で ESD 研修を実施します。	未実施	実施	実施

4

5 ⑤ <優良事例の顕彰>

指 標	現状(2014)	中間年(2017)	最終年(2019)
岡山地域内の ESD 活動が対象になる顕彰制度	0	1	1
「(仮称)岡山 ESD アワード」応募団体数	-	累計 60 団体	累計 100 団体

6

7 ⑥ <ESD 活動の拡大>

指 標	現状(2014)	中間年(2017)	最終年(2019)
岡山 ESD 推進協議会に参加して、ESD に関する講座や情報提供を定期的に行う拠点施設数	124 施設	160 施設	200 施設
岡山市市民意識調査における ESD 活動の認知度 (%)	15.4%(2013)	20%	30%

8

9 ⑦ <企業・事業者の取組促進>

指 標	現状(2014)	中間年(2017)	最終年(2019)
岡山 ESD 推進協議会への企業の登録数	16 事業所	30 事業所	50 事業所
環境マネジメント活動や CSR 活動、地域コミュニティの ESD 活動を促進する事業	年間 2 件	累計 6 件	累計 10 件

10

11 ⑧ <海外国内との連携>

指 標	現状(2014)	中間年(2017)	最終年(2019)
岡山 ESD 推進協議会参加登録団体と国内外の ESD 活動団体との新たな相互交流を行います。	2 件	累計 5 件	累計 15 件

12

13



1 **7. プロジェクトの推進に向けて**

2

3 **(1) 岡山 ESD 推進協議会を中心とした推進**

4 本プロジェクトは、岡山 ESD 推進協議会を中心に、ESD 推進に賛同する各組織・団体・機関が  
5 それぞれの活動に応じた役割を担い、連携して推進します。なお、岡山 ESD 推進協議会は、国  
6 連大学の指定する RCE(ESD 推進のための地域拠点)の推進母体です。

7 ① 協議会は、岡山地域の行政、研究機関、学校教育、社会教育、地域コミュニティ、民間非営利活  
8 動団体、企業、報道機関等で、本プロジェクトに賛同する各組織・団体・機関で構成します。

9 ② 協議会は、岡山地域全体の ESD を推進するために、以下の役割を担います。

10 ③ 協議会には、運営組織として、委員会、運営委員会、部会、事務局を設置します。

11

12 **(2) 分野横断的な連携**

13 本プロジェクトの推進に当たっては、岡山市及び岡山市教育委員会の関係部署とともに、専門的  
14 な人材育成や情報提供を行う大学・研究機関、環境保全活動や社会課題解決の支援を行う中間支援  
15 組織、企業や団体の調整を行う機関などが、それぞれのネットワークを活かした ESD 活動の支援を  
16 行いながら、分野横断的な連携を図りながら推進します。

17

18 **(3) 国内および国際的な連携**

19 本プロジェクトは、国内外の RCE 認定地域関係者や公民館、CLC、ユネスコスクールと連携し、  
20 また、国連大学等への岡山地域の取組成果に関する情報提供等を行うことで、国際的な連携の中で  
21 推進します。

22

23 **(4) 岡山 ESD プロジェクトの進行管理**

24 協議会は、毎年、運営委員会による進行管理を行うとともに、中間年の3年目、及び、最終年には  
25 国連大学や大学等の専門家を交えた評価組織を設けて、岡山 ESD プロジェクトの取組に対する評価、  
26 分析を行い、課題を抽出して解決策を検討します。

27

28 **(5) 資源**

29 このプロジェクトを推進するための人材、資金、施設などの活動資源については、それぞれの組  
30 織が既存の資源を活用することを基本としますが、自治体予算以外の資金をはじめ、新たな活動資  
31 源の獲得に努めることとします。

32 なお、協議会参加団体に対して助成措置を講じる場合には、それぞれの対象地域の自治体におい  
33 て負担することとします。

34

35

36

37

38

1 **8. 今後の展望**

2 現在、ユネスコにおいては、「グローバル・アクション・プログラム」の推進に向けた枠組みづく  
3 りを検討しているほか、日本ユネスコ国内委員会においては、2015年以降のESDのさらなる推進  
4 に向けた取組を盛り込んだESDフォローアップ体制づくりが進められています。一方、岡山市にお  
5 いては、急速に進む少子高齢化や人口減少への対応など中長期的な展望に立ち、持続可能な社会づ  
6 くりを進めていくため、新たな総合計画策定に向けた検討が進められています。

7 こうした中であって、本基本構想を実行力のあるものにしていくためには、ユネスコと歩調を併  
8 せることはもちろんのこと、プロジェクト参加者一丸となって取組む必要があります。

9 このため、国内外の実施計画等との整合を図る必要が生じた場合には構想を見直し、さらに個別  
10 の社会課題に対するESDからのアプローチに取組む必要が生じた場合には、弾力的に対応していく  
11 こととします。